

地味だが塩の味

「日本キリスト教連合会」の名前を知っておられるのだろうか。恐らく少ないと思われる。その点ではマイノリティーのクリスチャンの中で、さらに少数者 ザ・マイノリティーとして日キ連と「日本キリスト教連合会」は存在する。

そもそも、その働きが地味そのものである。宗政行政における所轄庁との窓口たる「日本宗教連盟」の構成団体として本連合会は働きをなしている。

宗教法人の事務手続きなどはなるべく避けたい、後回しにしたいというのが本音である。ほんとうは非常に大切に根本をなすものであるにも拘らずである。

そんな中、憲法が保障する信教の自由と政教分離の原則のもとに、キリスト教文化の振興を図り宗教法人の適切、適正な管理運営に寄与しているのが「日キ連」である。

地味だが塩の味として教会を教会たらしめていく「日キ連」の働きは続けられてきたし、これからも存続していく。

「困った時の日キ連頼み！」それでいいのである。見える教会形成のうえで、所轄庁との交渉が難航した場合、「日キ連」が俄然、存在理由と備



日本キリスト教連合会委員長
山北 宣久

値をあらわにされるはずである。

また「日キ連」はカトリック中央協議会・日本聖公会・プロテスタント諸派が緊密な連絡と協力を取り合って歩みが続けているところも強みである。幅の広さ、存在の深さは宝である。

去る七月十一日も、来る十一月二四日長崎で開催される「ペトロ岐部と一八七殉教者」の列福式について、イエズス会 平林冬樹司祭より講演を伺った。

殉教者とは何か。いまなぜ、キリシタン時代の殉教者に光を当てるのか。現代のキリスト者に殉教者はどんなメッセージを送るのかということについて深く話を伺いえた。

信仰・希望・愛と人間の尊厳をあかしする殉教者の霊性といったカトリック教会ならではの講演を伺いながら「日キ連」の交わりが現代の教会に寄与する意味を感謝とともに思わせられた。

こうして「日キ連」は開かれた働きを地味だが塩の味たるを自覚しつつ展開していく。

今秋十月六日から二泊三日天城山荘で持たれた「法人事務・会計実務研修会」も34回目を数えた。これも継続は力たるを証している。今後ともに「日キ連」をお支えいただきたい。



2008年度 日本キリスト教連合会総会報告

2008年4月25日(金)正午～午後2時 日本基督教団4階会議室

59の教団・教会からなる日本キリスト教連合会の総会が2008年4月25日に開催されました。内容は以下の通りです。

初めに2007年度の報告がなされました。佐藤丈史委員から「日本宗教連盟」の活動報告がありました。税制特別委員に2名の委員を推薦したこと、60周年記念誌「宗教と教育シンポジウム」(講師：日野原重明氏)を発刊したこと、税制改正に対する意見書を自民党本部に提出したこと、「学習指導要領改定案」のうち宗教の重要性を訴える意見書を提出したことが報告されました。東京都宗教連盟の報告が愛澤豊重委員によってなされました。「宗教法人運営実務研究協議会」が開催され、公益法人制度改革の動向について研修がなされました。

続いて2007年度の日本キリスト教連合会の活動が報告されました。5回の常任委員会、7月に定例会「政教分離と信教の自由」(講師：岡田武夫師)が開催されました。また10月

には第33回法人事務・会計実務研修会が天城山荘で開催されました。

次に、2008年度の活動計画が提案されました。内容は、定例会の開催、会報の発行、法人事務・会計実務研修会の実施、宗教法人実務の相談窓口設置、日本宗教連盟を通して所轄庁との協議を行う等です。なお、日本宗教連盟には理事として山北宣久師、幹事として佐藤丈史氏が就任しています。

会計報告としては、第33回法人事務・会計実務研修会の最終精算書、日本キリスト教連合会2007年度決算報告、および2008年度予算案が川勝宏宏委員によって説明され、全会一致で承認いたしました。

日本キリスト教連合会は58教団・教会の分担金で運営されています。分担額は2007年度総会で承認され、今後は4年ごとに調整することになっております。

なお、総会には教団の代議員の皆さまは必ずご出席くださいますようお願い致します。

2007年度決算報告		
収入の部	2007年度予算	2007年度決算
分担金・その他	2,108,600	2,104,269
前年度繰越	469,250	469,250
合計	2,577,850	2,573,519
支出の部	2007年度予算	2007年度決算
日・都宗連分担金	760,000	760,000
渉外費	200,000	153,835
事業費等	50,000	23,150
事務費	735,000	636,073
総会・会議費	60,000	96,588
講演講師費	200,000	150,000
交通費	130,000	93,880
印刷費	60,000	12,047
研修会補助費	100,000	0
予備費	282,850	0
次年度繰越金		648,146
合計	2,577,850	2,573,519

2008年度予算案		
収入の部	2007年度予算	2008年度予算
分担金・その他	2,108,600	2,156,400
前年度繰越金	469,250	648,146
合計	2,577,850	2,804,546
支出の部	2007年度予算	2008年度予算
日・都宗連分担金	760,000	760,000
渉外費	200,000	200,000
事業費等	50,000	50,000
事務費	735,000	685,000
総会・会議費	60,000	60,000
講演講師費	200,000	200,000
交通費	130,000	130,000
印刷費	60,000	60,000
研修会補助費	100,000	200,000
予備費	282,850	459,546
合計	2,577,850	2,804,546

講演



宣教150周年のキリスト教と日本

講師：古屋 安雄 先生

2008年4月25日(金)午後2時~3時30分 日本基督教団4階会議室

講師紹介 1926年上海に生まれる。1951年日本神学専門学校(現東京神学大学)卒業。その後プリンストン神学大学、チュービンゲン大学に留学。プリンストンよりTh.Dを授与。国際基督教大学教会牧師、宗務部長、東京神学大学、東京大学、自由学園等の講師を歴任。現在は東京女子大学宗教研習員、聖学院大学教授の職にある。



明年はプロテスタント宣教一五〇周年を迎えます。しかし、日本のキリスト教会の現状は非常に厳しいもので、特に教会の高齢化は目を覆うばかりです。人口に占める比率は〇・八%を少し超える程度です。中国は五%を超えと言われます。なぜ日本のキリスト教は伸びないか、これが今日のテーマです。そもそも日本の宣教は武士階級から始まりました。ピューリタンと武士道の幸いなる偶然の一致と言われますが、それが現在に至るまで「知識階級(特権階級)の宗教」として固定化した原因と思われれます。初代教会

とはまったく異なる様相を示しています。また日本の教会は知識偏重の弱さを持っています。それでキリスト「道」でなく「教」に、「公」会でなく「教」会にされてしまいました。その結果、日本の信仰寿命は二・五年、世界最短と言われます。離教者、棄教者が驚くほど多いのです。もう一つの特徴は牧師中心主義の教会であるということです。信徒の役割、活躍の場がない。平民から来る言葉「平信徒」と呼ばれます。それは、内なる天皇制として教会の成長を阻害してきました。日本のキリスト教の躰きには二種類あります。

第一は福音そのものの躰きであり、第二は牧師による躰きです。
新渡戸稲造、内村鑑三から来る「武士道」とキリスト教の結びつきが、日本のキリスト教を歪めたのではないかと考えています。「平民道」としてのキリスト教、実践的なキリスト教こそ追求すべきあり方でありましょう。多くの青年は神学や教理ではなく、奉仕活動によって信仰へと導かれるのです。
これからの日本の教会は人口の一〇%を超えなければなりません。この数は宗教社会的な根拠があります。福音派、カトリック教会に期待しています。特にカトリック文学者の信仰を全うする姿勢は大きな影響力を発揮しています。
教会の類型にイエス型(神の国)、パウロ型(信仰義認)、教会型(教会形成)があると由木康は分類します。神の国を強調した賀川豊彦を再評価する必要があります。贖罪愛を實踐する運動としての教会です。

定例会

殉教者—— 現代の教会へのメッセージを問う

講師：平林 冬樹 先生（イエズス会司祭）

カトリック教会では、11月 24日に長崎で「ペトロ岐部と 187殉教者」列福の式が行われます。この列福式を前に、この式が日本で行われる意義や、「聖人」「殉教」の意味を語っていただきました。

今回は、ペトロ岐部と一八七殉教者が現代のキリスト者に残したメッセージ、それは信仰・希望・愛と人間の尊厳を証しするものでありましたが、そのメッセージをお伝えしたいと思います。

カトリック教会では、伝統的に聖人・福者を大切にしてきました。聖人への崇敬は聖徒の交わりを深め、主イエスをいっそう理解させ、主を愛する愛を生み出すものです。主が父なる神を啓示するロゴスであられたように、聖人もキリストに従う道を示す役割を担ってきました。

「殉教」とは、言葉の意味からすると「あかし」であり、殉教者は文字通り「証しをする人」と言うことになります。キリスト教が十字架の死と復活の主に信仰の基礎を置いていることから、殉教はキリスト者の本質的なアイデンティティを形作るものと考えられます。また殉教は信仰・希望・愛の証しであり、その意味でキリスト者は日常的に殉教の死

を経験しているのです。

カトリック教会では「殉教の神学」として殉教者の定義を明確にしています。その死がキリストのご生涯に一致しているか、真正な福音の証しとなっているか、純粹に信仰にかかわる死か、神の民からの認証があるか、などが問われます。殉教の靈性は聖書のみことばに基づいて語られます（ヨハネ一六・2～3、20～22、第二コリント一・4～7、四・8～11、14～16）。



写真は、定例会で講演される平林冬樹先生

それでは一八八殉教者の意義をどのように捉えたらよいでしょうか。キリシタン時代は日本のキリスト者の原点、またはアイデンティティとすることが出来ます。キリシタン時代に築き上げられた「成熟した信徒の教会」と、その後二〇〇年以上続いた潜伏期の教会を支えた聖霊の息吹は、現代の日本に生きるキリスト者のうちにも働いています。殉教者を記念する意義は、気まぐれで移ろいやすい人間の評価や価値観にはなく、永遠で揺るぎなく公平で善と愛に満ちた神にのみ依り頼み、どのような苦しみの中にあっても意義を見いだし喜ぶ信仰を確認することです。それを証しすることが「殉教の神学」に他なりません。

信徒であった新福者の特色は、教会の一員として、家庭人として、社会人として証しを立てたことにあります。司祭・修道者であった新福者は、捧げ尽くした人、道を示す人であったということです。

第34回 法人事務・会計実務研修会



2008年10月6日(月)～8日(水) 天城山荘

秋の天城山荘で34回目となる「法人事務・会計実務研修会」が開催されました。密度の濃い集中した学びとともに、教団・教派を越えた幸いな交わりを楽しむことができました。研修は3つのクラスに分けて行われました。

A. 法人事務クラス 佐藤丈史先生

公益法人制度の抜本的な改革が施行されようとしているとき、宣教の実を豊かに結ぶために教会事務の重要性をもう一度見直さなければなりません。適切な事務こそ、キリスト教の「証し」になっているからです。

1. 宗教法人事務の全体的な流れを確認します。年間事務の流れ、月間事務、日常の事務はきちんと把握できているでしょうか。その他、会堂建設など特別事務もあります。
2. 宗教法人の実務に際しては、宗教法人法の基本理念を理解して所轄庁と折衝することがコツになります。
3. トラブルの原因になりやすい事例11例を取り上げ、具体的にアドバイスします。
4. 代表役員・責任役員が知っておかなければならない10箇条を確認します。

その他、知らなかったでは済まされない税金問題、一般社団・財団法人の概要、公益認定社団・財団法人の概要を学びます。



写真は、法人事務クラスの研修の様子

B. 教会と会計・税金クラス 繁田勝男先生

公益法人としての認定を受けるに際して、財務状況の「透明性」が求められます。そこで、一応の指針を基に、実務でも使える会計の最小限のルールを説明いたします。

1. 会計について—宗教法人のアカウントビリティ（説明責任）

教会は献金を用いて活動が行われます。そのために収支報告が求められます。対社会的にも責任を果たさなければなりません。

2. 会計基準について

一般の非営利法人には公的に認められた会計基準があります。一方、宗教法人、労働組合、NPO法人には公的な会計基準がありません。

3. 宗教法人会計の考え方

公益性が高いという認識は大切です。宗教法人独特の考え方、表示方法があるようですが、ここでは宗教法人法の定める会計書類、備え付け書類の作成について学びます。

4. 税金の問題

次のような税金が考えられます。事業を行っている場合は法人税、消費税、印紙税、源泉徴収税、法人住民税、事業税などです。

C. 会計事務クラス 計良祐時先生

このクラスは少人数で、パソコン前にして実習を行います。会計ソフト「PCA 宗教法人会計」を使用し、実際に簿記の入力作業を体験してみます。



2009年2月 定例会のご案内

2009年2月 午後2時～4時 日本基督教団 4階会議室

毎回、キリスト教界の最新のトピックを取り上げ、研鑽の時を持っています。直接携わっておられる講師をお迎えして、他では聞けない深い掘り下げがなされます。これまでは、臓器移植と生命倫理、憲法問題、尊厳死について、信教の自由などを扱ってきました。

明年2月の定例会のために、現在講師、テーマの選定を行っております。期待を持ってお待ちください。12月の常任委員会で概要が決定される予定です。決まりましたら、案内状とホームページでお知らせいたします。

2009年秋 第35回 法人事務・会計実務研修会

ご好評を頂いております「法人事務・会計実務研修会」は、明年2009年秋に第35回の研修会が開催されます。会場は富士箱根ランドを予定しております。

今年、参加を見送られた教団・教会の皆さまも、次回はぜひご参加ください。開催は10月を予定しております。ご案内は8月を目途にお送りいたします。



●日本キリスト教連合会役員

委員長 山北宣久
常任委員 愛澤豊重
川勝高宏
相澤牧人
前田万葉
立野泰博
中村隆治郎
佐藤丈史
矢木良雄

▼日本キリスト教連合会2008年度活動報告

4月25日 2008年度総会
／講演会(講師:古屋安雄師)
6月13日 第1回常任委員会
7月11日 第2回常任委員会
／定例会(講師:平林冬樹師)
9月25日 第3回常任委員会
10月6日～8日
第34回法人事務・会計実務研修会

*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは
169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 日本基督教団事務局内「日本キリスト教連合会」へ。